

平成 30 年度「ひょうご安全の日のつどい」の実施結果

阪神・淡路大震災から 23 年が経過し、震災を直接体験していない世代が増加することにより、震災の風化の進展が懸念されている中、最近の大阪府北部地震や平成 30 年 7 月豪雨災害においても、都市交通機能の災害脆弱性や災害情報の伝達方法の課題等が明らかになった。

震災 24 年を迎えた、平成 31 年 1 月 17 日も「1.17 は忘れない」「伝える」「活かす」「備える」をテーマに、災害文化を社会に定着させ、安全で安心な社会づくりを進めるためにひょうご安全の日のつどいを実施した。

1 「1.17 のつどい」

阪神・淡路大震災の犠牲となられた方々へ哀悼の誠を捧げるとともに、安全・安心な社会づくりに向けて歩む決意を国内外や次世代に発信する「1.17 のつどい」を開催した。

(1) 時 間 11:50~12:30 (献花 12:30~17:00)

(2) 場 所 人と防災未来センター慰霊のモニュメント前 (HAT神戸)

(3) 参加人数 2, 100 人

(4) 献花人数 2, 100 人

(5) 内 容

- 献奏曲(「マニフィカート」より『エスリエンテス』)
- 開会のことば
- 黙祷(「カリヨンの鐘」鳴鐘)
- 主催者代表挨拶
- 来賓挨拶
- 子ども達からのメッセージ
- 献唱曲「しあわせ運べるように」
- 1.17 ひょうご安全の日宣言
- 献奏曲(「アヴェ・マリア」)



1.17 のつどい

2 1.17 ひょうごメモリアルウォーク 2019

阪神・淡路大震災から復興した街並みや震災モニュメントを巡り、風化しがちな防災意識を高めるとともに、大阪府北部地震で都市交通機能の災害脆弱性が顕在化したことを踏まえ、緊急時の避難路、救援路として整備された山手幹線等を歩く「1.17 ひょうごメモリアルウォーク 2019」を実施した。



ひょうごメモリアルウォーク

(1) 場 所 西宮市六湛寺町～

神戸市須磨区若宮町

(2) 参加者数 3, 000 人

(3) コース別の参加者数

区 分		出発時間	スタート地点	参加者数（人）
一般 ウォーク	東 15km コース	8 : 0 0	西宮市役所	5 0 0
	東 10km コース	8 : 3 0	芦屋市川西運動場	5 0 0
	東 2 km コース	1 1 : 0 0	王子公園	4 0 0
	西 15km コース	8 : 0 0	須磨海浜公園	3 0 0
	西 10km コース	8 : 3 0	神戸常盤アリーナ (県立文化体育館)	2 0 0
	西 5 km コース	1 0 : 0 0	神戸市立中央体育館	6 0 0
企業等訓練ウォーク		各自設定	各事業所、学校等	5 0 0
計				3, 0 0 0

3 交流ひろば・ステージ

防災関係機関やNPO等による活動展示や炊き出し、東日本大震災・熊本地震、平成30年7月豪雨の被災地の物産販売や観光PR、支援活動報告などを実施した。また、Bloom Works によるミニライブ、熊本や岡山の観光復興PR、播磨町消防団・女性分団による啓発劇、防災クイズショーなど多彩なステージを実施した。

- (1) 時 間 10:30～15:15
- (2) 場 所 なぎさ公園、人と防災未来センター西館（1階）
- (3) 内 容
 - ・東日本大震災、熊本地震、平成30年7月豪雨被災地の物産販売、観光PR、支援活動報告
 - ・高校生・大学生による防災教育の実践紹介、炊き出し
 - ・防災啓発人形劇、防災体験ワークショップ
 - ・Bloom Works、あまゆうず、高石ともやによるミニライブ など



交流ひろば



交流ステージ

4 防災訓練

防災関係機関と連携した、県民参加による体験型の防災訓練を実施した。

- (1) 時 間 13:00～15:00
- (2) 場 所 なぎさ公園及び南側海上
- (3) 参加人数 300人
- (4) 内 容



防災訓練

【来場者体験型訓練】

各防災関係機関のブースにおいて、心肺蘇生法や三角巾を使った応急救護法のほか災害用伝言サービスの操作体験など、来場者が自由に参加できる訓練を実施した。

【デモンストレーション型訓練】

津波発生を想定し、災害時要援護者の避難誘導や、漂流者・負傷者等の救助・搬送等の訓練を実動機関と中学生・高校生が実施した。

なお、ドローンによる上空からの訓練状況を撮影するとともにその映像をリアルタイムに配受信する訓練を行った。

- ・海上からの避難広報訓練
- ・要援護者避難誘導訓練
- ・漂流者、負傷者等搬送訓練
- ・物資搬送訓練 等

5 施設見学

人と防災未来センター(見学者3, 000人)